

はじめに

我が国では、少子高齢化、人口減少による地域の産業やコミュニティの維持をはじめ、国際化による多文化との共存、AIやロボットといった技術革新の進展など、これまでに経験したことがない課題や社会の変化が予想されています。

このような社会の変化等を背景に、今後の教育の指針となる指導要領等が、これまでの学校教育の実践や蓄積を活かしつつ、子供たちが未来社会を切り拓くための資質・能力を確実に育成するため、特に、幼稚園教育要領においては、「健康な心と体」、「自立心」、「協同性」等、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を明確化するなど、「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指して改訂されました。

こうした中、国立青少年教育振興機構は、青少年教育のナショナルセンターとして、自然体験や社会体験などの体験活動を通じた青少年の自立を組織の使命として掲げ、様々な取組を進めてきました。

近年の研究では、子供たち、とりわけ、幼少期からの体験活動がコミュニケーション力や自己肯定感など、社会を生き抜くために必要な資質・能力の獲得に役立つことが明らかになっており、地域や学校等との連携を一層深め、「幼児期に身に付けたい36の基本的な動き」などのプログラムの研究・開発やその普及に取り組んでいます。

国立大雪青少年交流の家においては、平成29年度から「たびうさぎファミリー」を実施し、幼児とその保護者を対象とした体験プログラムの研究・開発に取り組み、この「SHITSUNAI ASOBI」は、外遊びをまとめた「MORI ASOBI」とともに、その中間まとめとして作成しました。

本冊子は、親子で記録に挑戦する活動を「たびうさぎネス」としてまとめたものとなっておりますが、親子だけでなく、幼児同士・幼児と先生・幼児と地域の人等、様々な形で実施することが可能です。幼児の室内での活動プログラムとして参考にしていただき、当所の御利用はもとより、地域における幼児を対象にした各種の取組に御活用いただけると幸いに存じます。

国立大雪青少年交流の家

所長 渡部 徹

